

春の自然観察
(6月11日)

新緑の草原ではさまざまな草原らしい花が見つかります。ひとつひとつメモを取りながら観察しました。



草丈の低い場所ではまた違う生きものがあります。何を見つけたかな？



ニガナを味見。
体験してみるっていいです！

草刈り体験
(7月8日)

農家の草刈りを体験しました。
まずは草刈り場所にはどんな植物が生えているか確かめました。



周りに気を配りながら、カマを使って草刈りします。慣れてきたところが危ないよ！
先生とスタッフでしっかり見守りました。



昔、草刈りの合間に飲んだというササ茶。ずっさりした味わいのお茶です。何度もおかわりするほど好評でした。

草刈り跡の観察
(10月21日)

夏の前に草を刈ったところには何が咲いたでしょう？ 草を刈らなかつたところとの比較もしました。



農家の草刈り跡は気持ちのいい原っぱになっていました。



クズのつる、コガネグモ、クルマバツタ、センブリ、それぞれ興味のあるものを見つけてくれたようでした。

山焼き後の観察
(6月11日)

山焼き後は岩の大きさがよくわかります。いい遊び道具になります。



普段は近づけないブッシュの中にも入ってみました。草原の中でどうして小さな林ができるのかという説明を聞きました。



ドリーネの底では俳句作り。
「山焼きは 秋ぎ合を 守るんだ」
「ドリーネは 落ちたらこわい 気をつける」

2019年度の調査結果

秋吉台お花畑プロジェクト

草丈が高くなった場所で草刈りし秋の花を増やす

草刈りで花が増えるしくみ



小さな株に光が当たる 花の咲く茎が増える

初夏に草を刈って持ち出すと、日当たりが良くなり、秋咲きの草花の数が増えます。

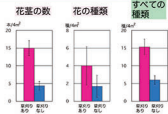
里芋の野草マルチ



刈った草は地元の畑には重要な資材になります。

サトイモの日焼けや乾燥を防ぎ、土がふかかになると言われています。

草刈り後の植生



今回の草刈り跡地でも、花茎の数、種類、生育するすべての植物の種類、いずれも増えていました。

抵抗菌の威力



抵抗菌・枯草菌・緑腐菌

- 抗生物質の生産
- 先住効果
- 植物の抵抗性強化
- 腐植物質を作る

畑に敷いた草には病原菌をやっつける善玉菌がとも増えるそうです。

野草のチカラ



草を敷かなかったサトイモ(写真の右側の列)は明らかに育ちが悪くなっていました。

草原の復元プロジェクト

外来植物を抑え在来植物の草原を再生する

刈った草を持ち出す区域



草丈 0.5 m

刈った草を放置する区域

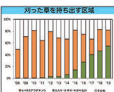


草丈 1.1 m

刈らない区域



草丈 1.6 m



セイタカアワダチソウの量より、ススキ・ネギサ・チガヤの合計量の方がはるかに大きくなりました。

草原らしい花も咲くようになりました。

【春に咲いた植物】

ニガナ、スミシ、ハシナガヤマツバキ、ミツバツチグリ、ウツボグサ、ネジバノ、ハナニガナ、ウマノアシガタ、ノアザミ

【夏～秋に咲いた植物】

カキラン、スズサイコ、アキノラムラソウ、サフヒヨドリ、ゲンショウコ、アキカラマツ、キンミズヒキ

山口大学農学部 藤間研究室

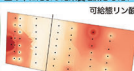


藤間 彩名さん

山口大学の学生さんが土を調べてくれました。

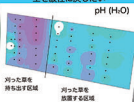
セイタカアワダチソウなどの外来植物を抑えるためには、土の栄養が少なく、酸性であることが大事です。

土の中にたまった栄養を減らしたい



可給態リン酸

土を酸性に戻りたい



色が薄い方がリンが少ない

色が赤い方が酸性が強い

秋吉台の自然すごい



秋吉小 4年生11人

珍しい植物見て、触れて

鶴岡市秋吉町の秋吉小学校（自由民主党議員、伊心）の4年生11人分目、四国北分島西原大森のリスノ台で、秋吉台を題材とする植物を鑑別した。

市内父の森児童館で開かれていた秋吉小の鑑別会では、秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。

秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。

2019年6月12日
山口新聞

秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。秋吉小の4年生11人が、秋吉台の自然を鑑別した。

秋吉台 草刈りの恩恵

草原保全グループ 秋の草花観察会、サトイモ掘り



秋吉台の草原の草を活用した畑でサトイモ掘りを体験する参加者ら＝美祿市

鶴岡市の秋吉台の草原の保全活動の一環として、秋吉台の草原の草を活用した畑でサトイモ掘りを体験する参加者ら＝美祿市

秋吉台の草原の草を活用した畑でサトイモ掘りを体験する参加者ら＝美祿市

2019年10月10日
山口新聞

みなさまからの「ひとこと」



多くの皆様のおかげで、このプロジェクトがこんなに長く続いたことを有難く思っております。このプロジェクトの始まりのきっかけとなったのは、私が秋吉台エコミュージアムで観察会を行ったり、下見をするとき畜産農家の方が草を刈ったり、遊歩道の側の草を刈ったりしたときに、刈り時期が良いといろいろな花がたくさん咲いて居ることから、皆さんと相談して、秋吉台に「お花畑」を作ろうではないか、ということでした。

名称は「お花畑プロジェクト」にしようということになり、県に相談したところ、審議会にかけられてその名称はまずいと言われ、今の名称になったわけです。思うに「花畑」というと台地を掘り返してお花を植えるのかと思われるのかもしれませんが、しかしながら、いまとなっては、「ふれあい」の言葉があったから県下各地から多くの方が参加されたとも思われます。(前田時博さん：当プロジェクト顧問)

プロジェクトに入り、皆さんと草刈の後どんな花が咲くかというのが楽しみでした。昔はどんな花が咲いていたのかな？

(宇山恭功さん)

今後も草刈り、観察会等があればよいが...

(中川幸治さん)

人生の数ページを埋めることができました。良い経験をさせていただきました。素晴らしい仲間の皆様のご多幸をお祈りいたします。

(歳弘逸郎さん)



荒木さん、松井さんはじめ、お話ししていただいた皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。でも、正直、とっても残念です。

私は9月のセイタカワダチソウ駆除と3月の山焼き後の草刈りに参加させていただきました。

私の実家は柳井で、実家には80歳を超える親父が一人で耕作している畑があります。私自身は山口市街地の住宅団地に住んでいるので刈り払い機は所持していません。そこで、秋吉台の草刈りのたびに、実家にとんぼ返りして刈り払い機を借りて秋吉台へ駆けつけていました。そのたびに親父から「実家の畑と秋吉台はどっちが大事なんだ(怒)」と訊かれ「どっちも大事だよ!」とお決まりのように答えてました。ホントは「秋吉台だよ」と言いかけていたのですが(笑) しかし、そんな親父も寄る年波には勝

ず百姓を引退し、そして、私が楽しみにしていた秋吉台草原ふれあいプロジェクトもまさかの終焉...

秋吉台の草原を守る方が居られることは、とても大切でありたいと思います。自分は年令もいっていますが、何か少しでも参加しています。草原に色々な雑木・かしの木が生えて少し草原らしくない風景を心配しています。何とか、少しずつでも伐採していくといいと思います。

(古屋スエ子さん)

セイタカワダチソウの生態や、刈り取った草を持ち出すことの効果などたくさんの方の知恵をこのプロジェクトで学ばせていただきました。荒木さんと松井さんに「お疲れ様、ありがとうございました。」という日が来ることがいまだにピンときません。人が作り出した草原景観は人が守らなければ維持できないですよ。またいつか違った形ででも復活することを期待しています。そのときは実家の畑仕事をサボって駆けつけますよ!

すみません...ひとことに収まりませんでした。

(角田正明さん：山口むしの会)

動植物は多様性でお互いが関わり合っていますが、草原復元作業も各人各様のやり方が見受けられ、それぞれ役割を担い整然と作業が進むことに感銘しました。(S. T. さん)

みなさまとご一緒にきた時間は私の宝物です。いつも温かい言葉と笑顔をありがとうございました! (荒木陽子)

草のことやら土のことを教えてもらうようになってから、ただのハゲ山だと思っていた秋吉台を見る目が変わりました。(安達康延さん)



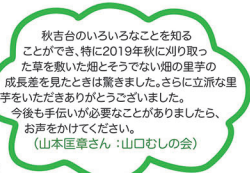


秋吉台の草原を復元するには、どのような維持管理が必要かということで始められた活動は、初期の目的は充分達せられたと思います。

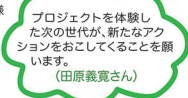
当初は10年ぐらいの活動かと思っていましたが、13年も継続されたことは、リーダーと支える事務局の存在が大きかったことは述べるまでもありません。

本来この様な活動は国定公園ということ考えた場合、行政が主導して実施することが望ましいわけですが、残念ながら現状にそぐわない現実があります。しかし、この活動によって得られたデータは大変貴重なもので、教育現場においても活用されておりますが、更に市民や県民にも広く知っていただく必要があると感じます。

生物多様性の基本法は2008年に制定されており、それに基づき生物多様性の国家戦略を2012年に策定し、国や県に於いても自然生態系を保全する取り組みが推進されてきました。この政策を着実に推進されてきたのは、県内ではこの草原プロジェクトであったと思います。引き続きならかの形で、草原の復元活動が継続されてゆくことを県民の一人として切望したいと考えています。(後藤和夫さん：山口むしの会)



秋吉台のいろいろなことを知ることができ、特に2019年秋に刈り取った草を敷いた畑とそうでない畑の里芋の成長差を見たときは驚きました。さらに立派な里芋をいただきありがとうございます。今後も手伝いが必要ながこがありましたら、お声をかけてください。
(山本匡章さん：山口むしの会)



プロジェクトを体験した次の世代が、新たなアクションをおこしてくることを願います。
(田原義寛さん)



スタッフの皆様、長い間お世話になりました。私は途中参加となりましたが、皆様と一緒に秋吉台の草刈りや追加山焼きをさせていただき、大変有意義なプロジェクトであったと思っています。

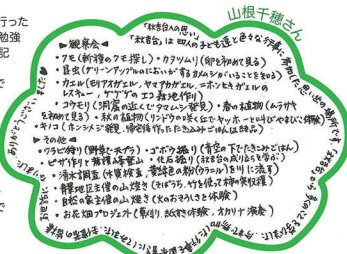
私たち「山口むしの会」は当然、秋吉台の昆虫たちを見守り続けており、台上の牧場が閉鎖される中、植物や昆虫たちの悪影響を懸念しています。しかし、皆様方と一緒に秋吉台を知ることが、秋吉台上の動物や昆虫たちの確認ができ、このままずっと継続してゆくものと思っております。

秋吉台の山焼きは、今後も継続されることでしょうが、「草原ふれあいプロジェクト」がなくなり、観光客だけは秋吉台を認識しますが、プロジェクトに参加していただいた方々には、秋吉台が遠い記憶になってしまうことでしょう。秋に行われる山野草の「観察会」などでは地元の子供たちも大勢参加されていました。この子供たちの記憶も引き継がれず、次第に「秋吉台」の記憶が遠のいてゆくと思われます。

県民や市民にいろんな意味で「秋吉台」のすばらしさを認識していただくには、このようなプロジェクトが存在し、山口県の宝である秋吉台を少しでも知っていただきたいと思っております。秋吉台には「少年自然の家」があり、秋吉台での遠足や野外活動がありますが、草刈りを行った後の結果観察などは行われなと思われますし、せいぜい台上の遠足にとどまります。

プロジェクトの方が汗を流し草刈りを行った結果、多くの草花が生まれてくる様を実践勉強することはこれからできません。子供たちの記憶の中にもなくなります。大変残念です。

プロジェクトは確かに実験の場でしたので、なくなることはやむをえませんが、大変有意義なプロジェクトであったように感じています。叶うことならこの結果をふまえて、予算を取ってまで事業化できないかということです。少しでも秋吉台に稀少な草花が生育し続けてほしいのです。そのことは台上の昆虫たちの繁殖にもつながります。阿蘇の高原に続く大切な草原です。(菅 哲朗さん：山口むしの会)



山根千穂さん

「秋吉台の思い出」
「秋吉台は、四人の子ども達と色々な行事に参加した思い出の場所です。」

●観察会●
・フモ(新種のフモ探し)・カタツムリ(卵を初めて見る)
・昆虫(グリーンアゲハの卵から青カマシメの幼虫を育てる)
・カエル(即アガカエル、ヤマアガカエル、ニホンヒキガエルのヒキナー、フミダゲの工芸製作)
・コウモリ(月原の近くヒラメタン見)・春の草花(ムラサキを初めて見る)・秋の植物(リンドウの咲く紅葉マホトと叫びやばい体験)
・キノコ(ホンシメジ観察、神楽製作、巨大キノコ作りは2回)

●その他●
・ワラビ採り(野暮と天狗)・ゴボウ採り(青空の下にキノコ採り)
・ピザ作りと摘採(阿蘇山・北岳採り(秋吉台の成り立ちを学ぶ))
・湧水調査(竹葉採取、青森色のキノコ(カエル)を川に流す)
・静養地区主催の山焼き(おぼろち、竹を伐り木を炭火製)
・自然の家主催の山焼き(水のおそくさと体験)
・お花畑プロジェクト(草刈り、紙飛行機、お祭り演奏)

秋吉台の思い出(2012)が、私達を育てた。2019年秋の秋吉台の思い出(2019)

2019年度 活動実績一覧

1. 一般募集の行事

実施日	行事内容	参加人数
7/7	草原の復元作業1	25
7/27	有志による 秋吉台お花畑プロジェクト1	11
9/28	草原の復元作業2： セイタカアワダチソウ駆除作業	22
10/5	秋吉台お花畑プロジェクト2	23
2020/3/8	追加の山焼き（燃え残り整備）	感染症拡大防止のため中止

3. 他団体への協力

実施日	行事内容
11/2	「美祇秋吉台カルストウォーク2019」への協力

2. 学校の学習への対応

実施日	行事内容
6/11	美祇市立秋吉小学校4年生の草原学習 （春の自然観察）
7/8	美祇市立秋吉小学校4年生の草原学習 （草刈り体験）
10/21	美祇市立秋吉小学校4年生の草原学習 （草刈り跡周辺の自然観察）
2020/2/26	美祇市立秋吉小学校4年生の草原学習 （山焼き後の自然観察）

4. 調査その他

実施時期	作業内容
5～6月	前年度草刈り跡地の観察
7月	本年度草刈り跡地の植生調査
9～11月	本年度草刈り跡地の観察および植生調査
10月～3月	植生データ解析・土壌サンプリング



秋吉台草原ふれあいプロジェクト 報告書

発行年月日：令和2年3月31日

編集・発行：秋吉台草原ふれあいプロジェクト

〒753-0816 山口県山口市吉敷佐畑 5-18-1

秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局 荒木陽子

E-mail: staff@akiyoshidai.org ホームページ: <http://akiyoshidai.org>